

2022年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検評価表

大項目	中項目	自己評価	対応	エビデンス	
①	教育理念・学修目標	1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	具体的かつ明確な形で、教員の養成の目標とその達成のための計画が示されており、できている。	本学のHP「情報公開」ページの「8. 教育職員免許法施行規則第22条の6に基づく情報公開について」の「(1)教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画」にて具体的かつ明確に設定している。	01 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02 静岡県教員育成指標 03 静岡県教員等育成指標活用のための補助資料
		2 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	静岡県教育委員会が策定した「静岡県教員育成指標」における「誰一人取り残さない教育」は、発達障がい理解や保護者支援、家庭支援につながる福祉系や心理系の科目を学び実践力のある教員の養成を目指している本学の目標と合致するものである。一方で、静岡県の育成指標の細目に関しては関連が見られないものもあり、今後見直しをしていく。	本学の教員養成の目標及びその達成するための計画と、静岡県教育委員会が策定した「静岡県教員育成指標」と照合した。	01 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02 静岡県教員育成指標 03 静岡県教員等育成指標活用のための補助資料
		3 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	2022年度は見直しを行っていない。今後、教職課程を所掌する保育実習委員会、小学校教育実習委員会で計画の見直しを行う。	今後行われる保育実習委員会、小学校教育実習委員会で見直しを行う。	01 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02 静岡県教員育成指標 03 静岡県教員等育成指標活用のための補助資料
②	授業科目・教育課程の編成実施	1 複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	幼稚園教職課程及び小学校教職課程で共通開設する授業科目はそれぞれ課程認定基準に沿っており適切である。また、幼稚園教職課程、小学校教職課程において、授業科目を共通開設することにより、幼小接続について検討できる教育課程の編成となっている。	幼稚園教職課程の課程認定申請書、小学校教職課程の課程認定申請書、教職課程の変更届(2021年、2022年)の内容を確認した。また、幼稚園教職課程、小学校教職課程で共通開設する授業科目のシラバスの内容について適切であるかを確認した。	04 教職課程の変更届(新旧対照表) 05 教職課程認定基準 06 静岡福祉大学シラバス 07 静岡福祉大学カリキュラムツリー(子ども学科)
		2 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	教職課程の授業科目を実施するにあたって、ICT、教室、図書等の施設・設備については、適切に整備されている。	全教室に有線LANのコンセント及びアクセスポイントを設置している。また、情報処理施設を3室設置するとともに、学生に対して一人一台ノートパソコンの所有を義務付けている。その他、学生が使用できる貸出ノートパソコンを、学生用に12台整備している。教室においては、大・中・小の教室を複数用意し、教職課程の履修人数にあった教室を充てている。図書、試験対策本は、付属図書館及び保育・教育実習センターに、合計2,594冊を蔵書している。	08 情報センター等の状況 09 学生貸出PC一覧 10 ノートパソコン購入の手引き 11 教職課程に関する図書の蔵書状況
		3 教育課程の体系性	法令及び本学の教員養成の目標とその達成のための計画に対応した必要な授業科目が配置されている。教職課程の授業科目と、それ以外の授業科目との関連性について適切に確保されている。	幼稚園教職課程の課程認定申請書、小学校教職課程の課程認定申請書、教職課程の変更届(2021年、2022年)の内容から適切な授業科目が配置されていることを確認した。また、本学の教員養成の目標及びそれを達成するための計画と教職課程の授業科目のシラバスを照合し、目標を達成するのに適切な授業科目であることを確認した。教職課程の授業科目とそれ以外の専門科目、基礎科目に配置している授業科目との関連性については、カリキュラム・ツリーから適切性を確認した。	04 教職課程の変更届(新旧対照表) 05 教職課程認定基準 06 静岡福祉大学シラバス 07 静岡福祉大学カリキュラムツリー(子ども学科)
		4 ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	小学校教職課程においては、各科目ごとにICTの活用についてシラバスに触れているが、科目間の役割を確認し、横断的に指導することはできていない。	小学校教職課程においては、実習校のICT活用状況や機器、ソフト等の整備状況を把握するとともに、学生への聞き取りを行い、ICT活用力を高めるためにどのような内容を科目ごとに指導していくか、検討する。	12 教職課程の授業方法に関する調査(回答)
		5 いわゆるキャップ制の設定状況	1単位あたりの学修時間を確保する上で、CAP制を有効に機能させている。	1年間に履修登録が可能な単位数の上限は50単位と定め、単位の厳格化を図っている。また、直前の学年のGPAが3.4以上の学生については、上限を56単位まで認めるなど、柔軟な対応も行っている。	13 静岡福祉大学学則 14 静岡福祉大学子ども学部履修規程 15 2022年度 学生便覧
		6 教育課程の充実・見直しの状況	小学校教職課程においては、小学校教育実習委員会にて、教育実習Ⅰ(学校体験活動)及び教育実習Ⅱの実施時期を前年度実習実施校からのアンケート、学生の実践力の向上と他の授業科目との関連も含め、検討し、実施時期の見直しを図った。また、それに伴い、実習に必要な単位数についても検討し、見直しを行った。幼稚園教職課程においては、保育実習委員会にて、次年度からのカリキュラムの見直しを検討している。また、個別対応が必要な学生に対する指導等についても内容等が報告され、学生の成果については、実習記録に自己評価が記されているため個別に対応方法を検討している。	小学校教職課程においては、実習実施後に学生との面談を行い、学修成果の確認を行ってきたが、その結果について小学校教育実習委員会にて、振り返り、また、さらなるカリキュラムの改善につなげていく必要がある。幼稚園教職課程においては、実習実施後に学生との面談を行い、学生と教員と幼稚園での学修成果の振り返りを行っている。保育実習委員会において、学生、教員、幼稚園の3者での見直しをもった学生の指導方法の改善を検討している。	16 【2022年度 小学校教育実習】実習校からの要望まとめ 17 【2022年度 小学校教育実習】実習巡回指導記録票 18 【2022年度 幼稚園教育実習】振り返り用資料 19 【2022年度 幼稚園教育実習】実習巡回指導記録票
		7 個々の授業科目の到達目標の設定状況	シラバス第3者チェックにより、到達目標の設定及び達成のための計画、コアカリキュラムへの対応は概ね図られている。	小学校教職課程においては、到達目標のチェックだけでなく、履修カルテ等も活用し、学生の学修状況を把握し、改善に努める。幼稚園教職課程においては、到達目標の達成を目指し、履修カルテに代わる、学生による自己評価をさせている。計画、コアカリキュラムの対応は、保育実習委員会において、検討している。	20 教職コアカリキュラム対応表(小学校一種) 21 教職コアカリキュラム対応表(幼稚園一種) 22 シラバス第3者チェック報告書
		8 シラバスの作成状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、シラバスは適切に作成されている。	シラバスと学生による授業アンケート、履修カルテ等の関連を分析し、シラバスの改善に活かす。	22 シラバス第3者チェック報告書
		9 アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、シラバスのチェックだけでは、アクティブ・ラーニング、ICTの活用について記述されていない面があったが、担当教員へのアンケート調査により、アクティブ・ラーニングについては92%、ICTの活用については84%の授業で実施されていることを確認した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、今後さらに、学生による授業アンケートや教育実習でのICT活用状況を把握し、学修効果の向上を目指す。	12 教職課程の授業方法に関する調査(回答)
		10 個々の授業科目の見直しの状況	個々の授業科目については、学生による授業アンケートにより各授業科目担当教員が適宜見直しを図っている。しかし、成績や教員採用試験の状況等の学修成果を踏まえた見直しについては、課題となっている。	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、集計結果は各授業科目担当教員にフィードバックしている。各授業科目担当教員に対しては、集計結果を踏まえ、次回に向けた改善等のコメント(回答書)の提出を義務付けている。	23 2022前期 アンケート実施対象科目一覧 24 令和4年度前期 授業アンケートに対する回答書 25 2022後期 アンケート実施対象科目一覧 26 令和4年度後期 授業アンケートに対する回答書

2022年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検評価表

大項目		中項目		自己評価	対応	エビデンス
②	授業科目・教育課程の編成実施	11	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	<p>小学校教職課程においては、教育実習Ⅰ(学校体験活動)について、実習報告会にて、実習状況を把握している。教育実習Ⅱについては、教員による実習巡回を行い、実習校での様子を校長・指導教員から聞くとともに、巡回担当教員が授業観察をし、学生との面談をして、実習の状況を把握している。さらに、実習後に授業科目担当教員が面談を実施し、実習の成果と課題について理解を図っている。</p> <p>幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習について、教員による実習巡回を行い、幼稚園での様子を園長・園指導教員からの報告を学生に伝え、学生自身に実習の振り返りをさせ、モチベーションを上げながら、その後の実習の向上につながる指導をしている。実習終了後、学生との事後面談、事後報告会、学生の自己省察のレポート作成を実施し、学修成果と課題についての理解を図っている。</p>	<p>小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、履修カルテを作成するとともに、実習指導、実習巡回記録及び学生との面談を通して、実習の実施状況及び成果と課題の確認を行い、さらなる学修効果の向上を目指す。</p> <p>幼稚園教職課程においては、履修カルテ等を作成するとともに、学生、教員、幼稚園の3者が連携することにより、学生の学修効果の向上を目指す。</p>	<p>16【2022年度 小学校教育実習】実習校からの要望まとめ 17【2022年度 小学校教育実習】実習巡回指導記録票 18【2022年度 幼稚園教育実習】振り返り用資料 19【2022年度 幼稚園教育実習】実習巡回指導記録票 27【2022年度 教職実践演習】成績評価一覧表 28【2022年度 小学校教育実習】成績評価一覧表 実施後面談評価含む 29【2022年度 小学校教育実習指導】成績評価一覧表 巡回指導・日誌評価含む 30【2022年度 幼稚園教育実習】幼稚園教育実習について 31【2022年度 幼稚園教育実習】実習評価票 32【2022年度 保育・教職実践演習】学生レポート</p>
③	学修成果の把握・可視化	1	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	学部ごとに「履修規程」を定め、成績評価に関する全学的な基準を策定するとともに、適切に公表している。	学部ごとに「履修規程」を制定し、成績を「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階とし、「秀」～「可」までを合格、「不可」を不合格と規定している。 また、これらの内容は、全学生に配付する「学生便覧」に記載し、適切に公表している。	<p>13 静岡福祉大学学則 14 静岡福祉大学子ども学部履修規程 15 2022年度 学生便覧</p>
		2	成績評価に関する共通理解の構築	複数の教員が分担して開講している同一名称の授業科目の成績評価の平準化に配慮している。	クラス分けされている授業科目(1科目)の成績評価基準、オムニバスの授業科目(16科目)の成績とりまとめについてそれぞれのシラバスをチェックし、適切であることを確認した。	<p>06 静岡福祉大学シラバス 22 シラバス第3者チェック報告書</p>
		3	教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定及び達成状況	<p>小学校教職課程においては、学生の成績状況の把握は、授業担当教員では行われていたが、委員会や学科として十分に行われていなかった。また、教員採用試験結果については、学科内で共有していたものの、履修カルテの使用が十分に行われていないため、学生個々の状況の把握は十分ではなかった。</p> <p>幼稚園教職課程においては、学生の成績状況の把握は、授業担当教員では行われ、指導が必要な学生は個別に対応もしている。しかし、履修カルテの使用が十分に行われていないため、保育実習委員会にて改善していく必要がある。</p>	<p>小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、今後、教職課程受講者の履修カルテを作成し、状況の把握に努めるとともに、個々の学生の指導を充実させる。</p>	<p>33 令和4年度 第8回子ども学科会議議事録 34【2022以前入学生用】幼稚園 履修カルテ案(履修状況) 35【2022以前入学生用】小学校 履修カルテ案(履修状況)</p>
		4	成績評価の状況	各授業科目の到達目標と、その達成水準を測定する手法やその配点基準を明確に示している。	本学ではすべての授業科目のシラバスについて、到達目標や成績評価基準も含めて適切なものであるか、シラバス第3者チェックにより相互チェックしており、教職課程に関わる授業科目について適切であることを確認している。	<p>06 静岡福祉大学シラバス 22 シラバス第3者チェック報告書</p>
④	教職員組織	1	教員の配置の状況	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。	<p>(1)小学校一種養成課程 ①教科に関する専門的事項:6人 ②各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等:4人 合計:10人</p> <p>(2)幼稚園一種養成課程 ①領域に関する専門的事項:5人 ②保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等:3人 合計:8人</p>	04 教職課程の変更届(新旧対照表)
		2	教員の業績等	<p>小学校教職課程は、課程認定申請において、幼稚園教職課程においては再課程認定申請において、担当授業科目に関する教員の教育研究業績書を確認した。</p> <p>その他、教員の退職等に伴い、新たに授業科目を担当する教員を採用する場合には、本学の教員採用に関する規程等に基づき、教員の教育研究業績書を確認している。</p>	<p>小学校教職課程は、課程認定申請において、幼稚園教職課程においては再課程認定申請において、教員の教育研究業績書を確認した。</p> <p>その他、教員の退職等に伴い、新たに教員を採用する場合には、「静岡福祉大学教員選考規程」「静岡福祉大学教員任用基準」「静岡福祉大学教員任用基準等の採用に関する運用内規」に基づき、教員の教育研究業績書を確認している。</p>	<p>36 静岡福祉大学教員選考規程 37 静岡福祉大学教員任用基準 38 静岡福祉大学教員任用基準等の採用に関する運用内規 39 R4 教職専任教員の教育研究業績書</p>
		3	職員の配置状況	規程に基づき、教職課程に携わる事務職員を適切に配置している。	「静岡福祉大学事務組織及び事務分掌規程」に基づき、事務部教務課内に教職課程に関する事務分掌を定め、2人(主担当1人、副担当1人)を配置している。	<p>40 静岡福祉大学事務組織及び事務分掌規程 41 令和4年度事務分掌表</p>
		4	FD・SDの実施状況	<p>しずく子ども未来ラボ研究会として、子ども学科内の教員の研究内容、研究成果の共有を図るとともに、学生についての情報共有、授業についての改善の方向を探った。(年2回実施)</p> <p>教員採用試験対策講座において、外部講師を招聘し、面接等の講演、指導を実施した。講座担当教員もズーム参加もしくは同席し、指導方法についての研修を行った。(年3回実施)</p>	<p>小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、大学全体のFD・SD研修だけでなく、子ども学科内における学生の履修状況の把握をし、学生の実践力向上のための授業のあり方についてFD研修を行う。</p>	<p>42 R4教員採用試験対策講座 外部講師による特別講座 43 しずく子ども未来ラボの概要資料など</p>
		5	授業評価アンケートの実施状況	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、その結果を改善に生かすための仕組みが構築されている。	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、集計結果は各授業科目担当教員にフィードバックしている。 各授業科目担当教員に対しては、その結果を踏まえ、次回に向けた改善内容等のコメント(回答書)の提出を義務付けている。	<p>23 2022前期 アンケート実施対象科目一覧 24 令和4年度前期 授業アンケートに対する回答書 25 2022後期 アンケート実施対象科目一覧 26 令和4年度後期 授業アンケートに対する回答書</p>
⑤	情報公表	1	学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	法令で定められた情報は、大学HPにてわかりやすく公表している。	本学HP「情報公開」ページに学校教育法施行規則第172条の2、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報を公表している。 情報の更新に当たっては、毎年度、5月1日を基準日として行っていることから適切であり、また、わかりやすい内容にするなどの配慮をしている。	44 静岡福祉大学公式HP(情報公開ページ)
		2	学修成果に関する情報公表の状況	2022年度は、小学校教職課程の7人が教員採用試験を受験し5人が合格した。また、6人が小学校教諭として就職をしている。小学校教職課程では十分な資質・能力を育成していると判断している。一方で、小学校教職課程及び幼稚園教職課程の両課程において明確な学修成果が定義されていない。	今後、小学校教職課程及び幼稚園教職課程における学修成果を定義し、それらを評価基準として、教職課程で身に付ける資質・能力を明確にする。	<p>45 卒業者の教員免許状の取得の状況 46 卒業者の教員への就職の状況</p>
		3	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	本評価表は、2023年10月末までに公表する予定である。 次年度以降の公表時期等については、今後検討するものとする。	エビデンス等を示したうえで、わかりやすい自己点検評価表を公表する予定である。2022年度の状況は、2023年10月末をめぐりに公表する予定とし、それ以降の状況に関する公表時期は、今後、担当者間で協議し決定するものとする。	2022年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検評価表

2022年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検評価表

大項目		中項目		自己評価	対応	エビデンス
⑥	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	1	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	HP、大学案内、SNS等にて、本学の教職課程に関する情報を公開し、学生の確保に努めている。ただし、過去2年間の子ども学部子ども学科の入学人数が定員未充足であり、適切な学生数は確保できていない。	HP、SNSにおいては、学部・学科紹介の中で取得できる資格・免許として掲載し、大学案内においては、前述の情報に加え、卒業生等のメッセージなどを掲載するなど、教職課程を希望する学生の受入れに工夫を施している。 しかしながら、過去3年間の入学人数は、入学定員70人に対し、43人(2022年度)、46人(2021年度)、78人(2020年度)と、過去2年間は定員未充足の状態が続いている。	47 静岡福祉大学公式HP(子ども学部紹介ページ) 48 自己点検評価共通基礎データ様式【大学(専門職大学含む)用】様式2
		2	学生に対する履修指導の実施状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学修に課題のある学生については、個人面談を実施し、履修指導を行ったが、履修カルテの作成、活用は十分ではなかった。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学科内での指導担当教員による履修指導により、全学生について学修指導、生活指導を実施するようになった。今後はこれに加え、履修カルテの作成及び個人への指導をより効果的継続的になるよう改善していく。	17【2022年度 小学校教育実習】実習巡回指導記録票 19【2022年度 幼稚園教育実習】実習巡回指導記録票 34【2022以前入学生用】幼稚園 履修カルテ案(履修状況) 35【2022以前入学生用】小学校 履修カルテ案(履修状況)
		3	学生に対する進路指導の実施状況	小学校教職課程においては、キャリア支援課との情報共有が、十分にできていなかった。教員採用試験に関する情報は、教員採用試験対策講座担当者間で随時情報共有をしていたものの、学生の進路指導について共有することは十分ではなかった。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導の中で、実習指導とともに、進路状況の確認及び進路指導を行った。	小学校教職課程においては、教員採用試験対策講座受講者だけでなく、小学校教諭一種免許取得希望者のニーズを把握し、正規採用だけでなく、講師等も含めたキャリア支援を充実させていく。さらに卒業生についても就職状況を把握し、適切なアドバイスや情報提供を行っていく。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導の中で、実習指導とともに、進路状況の確認及び進路指導を行った。	49【2022年度 幼稚園教育実習】面談日及び進路指導
⑦	関係機関等との連携	1	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	小学校教職課程においては、教育実習等を行った12の市町教育委員会のうち、9委員会には、直接訪問し、実習校からの要望、委員会としての対応等について情報共有を行った。残りの3委員会については、電話での情報共有を行った。特に焼津市教育委員会とは、覚書を取り交わし、今後の実習、ボランティア等の充実を図ることを確認している。また、静岡県教員養成協議会養成部会に2回参加し、情報交換及び情報共有を行った。他大学との連携については、単位互換等の協議を始めている。 幼稚園教職課程においては、静岡県教育委員会との連携はないが、藤枝市教育委員会、藤枝市子ども課及び焼津市子ども未来部保育・幼稚園課と連携を図っているところである。他近隣市では、私立幼稚園が多いため、私立幼稚園協会との連携を行っていく必要がある。	小学校教職課程においては、焼津市教育委員会との連携を図るとともに近隣市町教育委員会等とも連携を図り、学生の実践力向上を目指す。教員採用試験実施時期の移動により、各大学の实習時期について情報収集し、実習指導、実習時期を検討することにより、教育実習等の充実を目指す。 幼稚園教職課程においては、焼津市子ども未来部保育・幼稚園課、藤枝市子ども課及び近隣私立幼稚園協会との連携を図り、学生の幼稚園教育実習の質の向上を目指す。	50 R4第2回小学校教育実習委員会議事録(抜粋) 51 R4第6回小学校教育実習委員会議事録(抜粋) 52 ★R4養成部会次第・資料 53【2022年度】市町教育委員会 訪問先一覧 54【2022年度】近隣教育委員会との話し合いメモ(幼稚園)
		2	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	小学校教職課程においては、学校体験活動及び教育実習を学生の母校で実施した。学校体験活動については、学生の報告書により実習状況の把握を行った。教育実習において、34人の実習校へ巡回指導を行い、学校体験活動も含めて、実習の状況把握を行った。巡回指導記録票及び実習後の実習校からのアンケート調査を行い、状況把握を行った。また、個別の希望についても実習校と連絡を取り合い、対応に努めた。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導にて、実習幼稚園からの意見聴取をして、保育実習委員会委員の教員と情報を確認している。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、各巡回指導票と実習校のアンケート結果を委員会等でさらに検討し、実習の効果をより高めるよう改善を図っていく。	16【2022年度 小学校教育実習】実習校からの要望まとめ 17【2022年度 小学校教育実習】実習巡回指導記録票 19【2022年度 幼稚園教育実習】実習巡回指導記録票 55【2022年度 幼稚園教育実習】実習校からの要望
		3	学外の多様な人材の活用状況	小学校教職課程においては、教員採用試験対策講座にて、外部講師を年3回招聘し、3年生、4年生のへの講座及び実地指導を行った。また、教職論、教職実践演習(幼・小)、学校体験活動、小学校教育実習指導の授業において、本学の実務教員の経験に基づく授業を複数回実施し、学生の実践力向上、実習効果の向上を図った。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導にて、外部講師(幼稚園園長)を活用している。また、幼稚園等乳幼児施設での実務経験のある教員が授業を担当している。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、大学の授業科目と教育実習との連携を図れるよう、外部講師、実務経験のある講師の授業を充実させ、理論と実践の往還、学生の実践力の向上を目指す。	42 R4教員採用試験対策講座 外部講師による特別講座 56 2022年度 保育教職実践演習及び幼稚園教育実習指導 外部講師起用計画